## 世界初！プラネタリウム

**【相模原市立博物館リニューアルオープン】**
**2025年７月16日**

世界初の「10億個の星×８K全天周映像」を同時体験できるプラネタリウムに生まれ変わりました。直径23mのドームスクリーンは県内最大級。プラネタリウム上映だけでなく、コンサートなど多用途に対応出来るようになりました。

## 全国1番目！「ポケモン天文台」特別企画展開催

相模原市立博物館で2025年11月１日（土）から2026年１月12日（月・祝）まで、全国巡回展の初めての会場として相模原市で開催。

## 17年ぶり！相模原「NHKのど自慢」開催決定

2026年２月１日（日）に相模女子大学グリーンホールで開催されます。NHK「のど自慢」が相模原で開催されるのは、2008年２月以来、約17年ぶりです。
**ゲスト：堀内孝雄さん、島津亜矢さん。**

## ホームタウンアスリート 坂井（さかい） 丞（しょう） さん

**日本飛込界初！　混合団体銅メダル獲得！**

日本を代表する飛込競技の選手で、相模原市出身。
リオ五輪・東京五輪・パリ五輪と３大会連続でオリンピックに出場し、2025年９度目の世界選手権出場となったシンガポール大会、混合団体で銅メダルを獲得しました。チームイベントでの銅メダルは 日本飛込界にとっても初の快挙であり、将来的に五輪種目採用への期待が高まっています。

## ホームタウンアスリート 吉沢（よしざわ） 恋（ここ） さん

金メダリスト　吉沢恋選手を生んだ小山公園ニュースポーツ広場、2026年３月中にリニューアルオープン予定。
現在、スケートボード、インラインスケート、BMX、3×3バスケットボール、ストリートダンスなどのストリートスポーツ拠点としてリニューアル工事が進んでいます。

## ホームタウンアーティスト 芝野虎丸（しばの とらまる） さん（囲碁棋士 九段）

**ホームタウンアーティスト第1号認定！**
「ホームタウンアーティスト」は、相模原市が新設した制度で、地元ゆかりの若手文化人を認定し、市の文化芸術のイメージ向上に協力してもらう取り組みです。
その第１号に認定されたのが、相模原市南区（鶴園小・谷口中出身）、19歳11か月で史上最年少「名人」獲得、最年少九段昇段など数々の記録を更新し活躍されています。

**相模原から日本を変える！会**
【発行】相模原から日本を変える！会　相模原市南区西大沼 2-52-13　TEL 042-851-6152　FAX 042-851-6162
※掲載内容は、相模原市資料をもとに「相模原から日本を変える！会」が編集したものです。

つくる。
幸せ色あふれる
相模原

# 相模原から日本を変える！

**2025～2026年　冬特別号**

# もっともっとワクワクする 相模原の未来へ

- 移動型子どもの遊び場の開催
- 小・中学校体育館・特別教室の空調設備整備
- 小児医療費補助の拡充
- 児童クラブの拡充
- 動物愛護センターの整備
- 公設民営のアイススケート場の整備
- ロボット特区・宇宙産業を活かした未来産業の創出とまちづくり
- 宮ヶ瀬湖の釣り解禁
- 道の駅整備事業
- 金原地区土地改良事業
- 鵜野森交差点周辺地区のまちづくり
- 麻溝台・新磯野地区整備推進事業
- 新斎場整備計画
- 斎場大規模改修整備
- 防災井戸整備事業
- 自動運転バスの実証運行
- 淵野辺駅南口周辺のまちづくり
- 相模原駅北口土地利用計画
- リニア新駅周辺まちづくり
- 津久井湖観光センター建替え
- 津久井総合事務所周辺公共施設再整備事業

## ●「リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略」起業するなら相模原

橋本駅イノベーション戦略は、リニア新駅を契機に橋本を「イノベーションの交差点」とする都市構想です。研究開発拠点の集積、ベンチャー支援ネットワークの形成、産官学連携による新産業創出を通じて、相模原市は「一歩先の未来」を実現する拠点都市を目指しています。

- **イノベーション創出拠点**
  「FUN＋TECH LABO」（JR東海運営）
- **オープンイノベーションプログラム**
  「Sagamihara Innovation Gate」
- **広域的ベンチャー支援ネットワーク**
  「Greater Linear Startup Network（GLiS）」
- 重点分野：デジタル、ロボット、モビリティ、宇宙関連産業など最先端分野の研究開発拠点を集積。
- **産官学連携**
  大学・研究機関・企業・行政が共創するエコシステムを形成。

▲土地利用のイメージ＝相模原市提供

## ●相模原駅北口土地利用計画

▼交流ハブ機能のエリアと隣接する施設イメージ

**「グリーン×ライフ×イノベーションシティ」**

・多様な交流が新たな価値を生む都市像を掲げ、以下の５機能を導入

1　**業務開発共創機能：**オフィス・研究機関を集積し、昼間人口を増加。
2　**商業機能：**買い物や体験型商業施設でにぎわいを創出。
3　**居住生活機能：**中層集合住宅と生活利便施設を複合化。
4　**交流ハブ機能：**イベントや防災拠点を兼ねる広場・ホール。
5　**交流にぎわい機能：**アリーナや地域ホールなど、多世代交流の場。
　脱炭素型まちづくりを推進（ゼロカーボン目標）

・グリーンインフラを積極的に導入し、歩きやすい、人中心の空間を整備。
・中低層・低密度の街並みを基本に調和を重視。

□令和７年８月：土地利用計画策定。
□令和７年10月：財務省関東財務局へ提出済み。
□今後：用途地域・地区計画の都市計画決定を進め、国と協議。
□土地処分まで５～８年、基盤整備に10～20年を見込む。
□段階的にまちづくりを進め、長期的に持続可能な都市空間を形成。

## ●淵野辺駅南口周辺まちづくり

老朽化した公共施設を鹿沼公園に集約・複合化し、公園全体をリニューアルすることで「図書館と公園のあるちょうどいいまち淵野辺」を目指しています。

淵野辺駅南口周辺まちづくりは、公共施設の複合化と鹿沼公園の再整備を一体的に進める官民連携プロジェクトです。図書館を核に「学び・交流・活動の拠点」を形成し、公園の自然と融合させることで、次世代に引き継ぐ持続可能で魅力ある都市空間を創出しようとしています。

**公共施設の集約・複合化**

・図書館、視聴覚ライブラリー、大野北公民館、大野北まちづくりセンター、青少年学習センター、あさひ児童館、国際交流ラウンジを鹿沼公園内に集約。
・図書館機能を中心とした複合施設を整備。
・鹿沼公園のリニューアル。
・水生植物池を廃止し、散策可能な樹林地を整備。
・健康遊具を備えた多世代向け健康スポーツ施設を新設。
・白鳥池・築山・テニスコートは存続。
・軟式野球場は廃止し、芝生広場へ転換。

子育て施策

都市と自然のベストミックス

# 子育てするなら相模原

「経済的負担の軽減」「切れ目のない支援」「子育てにやさしい環境整備」を三本柱として施策を展開しています。給食費無償化や修学旅行費支援など直接的な家計支援から、公園整備や休日保育拡充といった生活環境改善まで幅広く取り組み、子育て世代が安心して暮らせるまちづくりを進めています。

### 子育て応援条例の制定

●令和７年４月１日施行
「相模原市子育て応援条例」

●**目　　的**
結婚や子育てを希望する人が安心して希望を叶えられる社会を実現すること。

●**基本理念**
○結婚・子育ての多様な価値観を尊重
○子育て世代が孤立しないよう社会全体で見守り、支える。
○市・市民・事業者・教育機関が連携して応援。

### 経済的負担の軽減

●市立小学校・義務教育学校１年生の給食費無償化
●市立小中学校等・公立保育所の給食食材費一部支援
●修学旅行費の一部支援
●フリースクール通所費用支援
（不登校児童生徒の居場所確保）
●スタディクーポン事業
（低所得世帯の中学３年生の学習塾代支援）
●教材整備事業
（学用品を学校備品として購入し家庭負担を軽減）

### 切れ目のない子育て支援

●妊婦健診費用助成の拡充
●１か月児健診助成（最大5,000円）
●休日一時保育の拡充（南区・中央区にも拡大）

### 子育てにやさしいまちづくり

●公園整備
○淵野辺公園にふわふわドーム設置
（令和７年度）
○相模原麻溝公園にロング滑り台設置予定
（令和８年度）
○公共施設にキッズコーナー整備